

女性研究者研究活動支援事業（一般型）

(実施期間：平成 26～28 年度)

実施機関：情報・システム研究機構（総括責任者：藤井 良一）

プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容（事業名称「ROIS advance」）

情報・システム研究機構には、生命科学に加えて、女性研究者が少数である統計数学、情報学などの分野で活躍している女性教授たちが所属している。その協力を得て、論文執筆合宿や申請書の添削を行う。研究力だけでなく、上位職やトップ・リーダー育成も視野にいたしたセミナーも開催する。4 研究所をもつ当機構の特徴を活かして、女子大学院生が指導教員と共に、研究者交流促進プログラムに参加しやすい仕組みを作り、若手女性研究者の裾野を拡大する。機構のメンバーを対象に、男女共同参画に関する啓蒙も行う。

(2) 研究を支援する者の配置計画

コーディネーター1名、事務補佐員1名、研究支援員4名（各研究所に1名）を配置する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

機構長のリーダーシップにより、分野の異なる4研究所を機構として適切にまとめ、各研究所の実状に即した形で女性研究者の活躍促進に取り組み、女性承継研究者の採用比率が目標の25%を上回る等、一定の成果を上げたことは評価できる。女性研究者の母集団が特に少ない学問分野の問題を的確に把握し、研究者の公募に女性限定公募を導入し、一般公募においても女性応募者が増加する状況を作り出したことは評価できる。今後は、優れた女性研究者を育成し大学等他機関へ転出させるとともに、優れた女性研究者を大学等他機関から機構に積極的に迎え入れる仕組みを構築することを期待する。

- **目標達成度**：女性承継研究者の採用比率は目標を上回り達成した。また、女性研究者の論文投稿数は増加しており、研究業績も一定の向上が見られた。しかしながら、機構全体としての女性承継研究者の在職比率については、他機関への転出を要因とし目標を達成できなかった。
- **取組**：女性研究者が極めて少ない極地研究所において、所長主導で承継研究者の女性限定公募を実施し採用を進めたことにより、承継研究者の一般公募においても応募者の女性比率が20%程度から50%程度に向上したことは評価できる。極地研究所における女性限定公募の取組は他研究所へも普及し、優れた女性研究者の採用に繋がっている。さらに、「論文執筆合宿」という特色ある取組により女性研究者のエンパワーメントが図られ、また、異分野交流が進んだことも評価できる。

- **取組の成果**：承継研究者の女性限定公募、新規採用女性研究者に対する支援職員人件費やインセンティブ研究経費の支給により、積極的な女性研究者の採用が進められ、3研究所において女性承継研究者比率が顕著に上昇したことは評価できる。また、メンターの配置、「論文合宿セミナー」や「キャリアアップセミナー」の開催等により女性研究者の研究力が向上し、論文投稿数、発表論文数、外部研究資金の獲得額の増加に繋がったことも評価できる。
- **実施体制**：機構長の直轄組織としてコーディネーターを配置した「女性研究者活動支援室」を創設するとともに、4研究所各々にも研究支援員を配置した支援室を設置し、4研究所の連携を強化しつつ機構全体としての女性研究者支援を実践したことは評価できる。また、機構のURAステーションが女性研究者の研究力強化の役割を担ったことは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後は「女性研究者活動支援室」を「男女共同参画推進室」に改組し、自主経費により予算を確保するとともに、コーディネーターを配置しこれまでの取組を継続しており評価できる。今後は、女性研究者のニーズの高い保育支援にさらに取り組むことを期待する。